

令和六年度 一般入学試験 (B日程) 国語

徳山看護専門学校

| | |
|------|--|
| 受験番号 | |
| 氏名 | |
| 得点 | |

問題 一次の文章を読んで、問いに答えてください。

解答はすべて解答用紙に記入してください。

今から百五十年ほど前、明治新政府は徳川幕府の鎖国政策を①アラタめ、国の制度を初め広く積極的に②欧米に学び始めた。日本が世界に仲間入りするための③センタクだった。何もかもが一気に大きく変わり始め、人々の生活様式は変わっていった。文章の書き方も変わった。

それまで、日本では普段話している言葉では書かない④シウカンがあった。「話し言葉」と「書き言葉」は違っていたのである。書くときは格調豊かな伝統的な書き方に従って書くのが正式だった。1 ができて、きちんとした手紙は苦手な人が多くいた。改めようではないか。普段話している言葉そのままで書けばよいではないか。第一、今の「書き言葉」では欧米の文化を伝えるのにも苦勞する。

そうして、まず、小説家を取り組み始めた。「話し言葉」を「書き言葉」にしよう。これが、言文一致運動である。では、なぜ「話し言葉」と「書き言葉」が違っていたのか。

千二百年ほど前、奈良時代の終わりごろになるが、現存する中では我が国最古の歌集「万葉集」が作られた。編集したのは大伴家持という貴族だろうと伝えられている。そこには四千五百余りの様々な身分の人々の歌が集められている。天皇の歌から農民の労働歌まで。②余談だが、これが万葉集の大きな④ミリヨクの一つでもあるのだが、当時の人々がどんな生活をしていたのかがよく分かり非常に興味深い。いや、もつと以前、まだ私たちの祖先が文字というものを知らない時代の、歌うことによって伝えられてきた③伝承まで⑤オサめられているのである。そういう意味で、万葉集は日本文学の④源流であり、歴史の宝庫でもある。ところが、これらの歌を書き残すのに当時の人は苦勞したらしい。なぜなら、万葉集が作られた時代、日本人は、自分たちの文字をまだ持っていなかった。文字と言えば中国の漢字を知っていただけだった。だから、当時、公式文書は中国の漢字を用い、中国の文章である漢文で書いた。2 だけに漢文が書ける人はごく一部だったに違いない。しかし、これにより、中国とはもちろんのこと、周辺諸国との意思の⑤疎通はできていたであろう。中国語は、いわば、3 だったわけである。このように、日本には日本語を表す日本の文字が無かった。だから、万葉集はすべて漢字で書かれている。

このをかに なつますこ いえのらせ なのらさね わにこそば のらめ いへをもなをも
此岳尔 葉採須兒 家告閑 名告紗根(略) 我許背齒 告目 家呼毛名雄母 (万葉集卷一・一) (萬葉集) 塙書房

これは万葉集の⑥巻頭に置かれた雄略天皇作と伝えられる歌の一部である。(振り仮名は参考のために付けてある。)
「この丘で野草を摘んでいるお嬢さん。私にあなたのお名前を教えてくださいませんか。」名前を聞くのはプロポーズ。答えればそれを受けること。万葉集が作られる四百年も前の、もちろん文字のない時代の、大らかな春の野の⑥フウケイである。

この歌のように、万葉集は、日本語の意味に合う漢字を一語一語当てはめているのである。大変な作業であったろう。読む人も大変だったろう。この当てはめた漢字を今日「万葉仮名」と言っているが、やがて私たちの祖先は、この万葉仮名を工夫して仮名文字を発明した。こうして、日本には中国から借りてきた漢字に加えて、日本で発明した仮名文字が使われるようになった。しかし、当初は公用文を初め正式な文章はあくまで漢字だけを使った漢文で書かれ、⑦仮名文字はやや低く見られていたようである。だから、漢字を「真名(まな)」、仮名文字を「仮名(かな)」と言っていた。真名とは正式な文字、仮名とは仮の文字を意味する。

ところが、それから百年後、天皇の命により「古今和歌集」が作られた。表記は真名と仮名を組み合わせている。そう、今、私たちが普通に使っている仮名交じり文である。その古今和歌集の代表歌の⑦一首を見てみよう。

花の色は うつりにけりな いたづらに 我が身世にふる ながめせしまに 小野小町 (大岡信「百人一首」世界文化社)

なにしろ、天皇の命によって作られた歌集である。①仮名に名譽が与えられた。こうして漢字と仮名を組み合わせた日本語表記が⑦カクリツシ、また、日本の歌は中国の漢詩に対して「和歌」と呼ばれるようになった。「和歌」とは「4 」。高らかな日本文学の宣言である。

また、この表記は、美しい筆遣いを生み、仮名文字を⑧トクイとした平安時代の宮廷女性も次々に美しい文字で和歌を織り交ぜた物語を書き始めた。その代表的な作品が現在も日本文学史上の③金字塔として輝き、⑨翻訳され世界で読まれている紫式部の「源氏物語」である。

それは、まさに 5 であり、このような和歌に⑨イロドられた平安時代の貴族の文章が、やがて「書き方」のお手本となり「型」となり「書き言葉」として江戸時代まで受け継がれていくことになるのである。その書き方に従って書くということは、平安文学に⑩琴線をはぐくまねながら書くということであり、同時に和歌の教養もリズムも自然に身に付けることにもなった。美しい「書き言葉」だった。

しかし、「話し言葉」は時代とともに変わっていく。時代が進むほどに、人々は、日々の「話し言葉」と、変わることもない「書き言葉」がかけ離れていくという現実的な不便を感じるようになった。

そして、明治を迎え言文一致運動が起こった。しかし、江戸時代は各藩の領民は移動を禁じられていたため、日本中がいろいろな言葉を話していた。「話し言葉」の統一から始めなければならぬ。それらの困難を明治の人々は一つ一つ⑩コクフクし、しかも、平安文学の仮名交じり文を大切にしたい言文一致を成し遂げたのである。

こうして、今、私たちは、日本語の伝統を守りながら自由にのびのびと文章を書いている。

問1 傍線部①～⑩の漢字には読みを、①～⑩のカタカナは漢字で、それぞれ書いてください。

問2

1

5

に入ると思われる言葉を選び、記号で答えてください。

ア やまとうた イ 外国語 ウ 日常会話 エ 国際語 オ 歌物語

問3

文中㊦仮名文字はやや低く見られていたようである。とありますが、その理由を文中の言葉を使って説明してください。

問4

文中㊧仮名に名譽が与えられた。とありますが、仮名に名譽が与えられるとはどういう意味でしょう。あなたの言葉で説明してください。

問5

この文章には題名がありません。あなたなら、どのような題名にしますか。

問題二

日本語の名詞には ①普通名詞 ②固有名詞 ③数詞 ④形式名詞 ⑤代名詞があります。該当する名詞を選んで記号で答えてください。

ア 富士山 イ 一万円 ウ 貴婦人 エ あなた オ こと

問題三

次の熟語が「対義語（意味が正反対）」になるように漢字を選び、記号で答えてください。

① 静脈 | 脈 ② 既知 | 知 ③ 被害 | 害 ④ 閉鎖 | 放 ⑤ 出席 | 席

ア 開 イ 未 ウ 動 エ 欠 オ 加

問題四

例えば「腕が鳴る」といった表現は、言葉どおりの意味から離れて別の意味を表しています。このような言葉を慣用句といいます。

次の慣用句を使って、主語・述語を置いて「文」を書いてください。

- ① 胸を張る
- ② 花を持たせる

問題五

次の俳句は芥川龍之介のなかなか面白い俳句です。俳句には季節を表す「季語」を入れるという約束があります。この俳句の季語を書き出し、その季節を書いてください。

また、俳句には定型（五・七・五）という制約があるため、それを補う工夫として「切れ字」があります。「かな」や「けり」が代表的ですが、言い切ることで句に余韻が生まれます。句の味わいをより深くする技法です。しかし、「切れ」と言って、「切れ字」を使わなくても同じ効果をねらった俳句も多くあります。この俳句にもあります。どの言葉の後に「切れ」があると思いますか。

あながへる
青蛙 おのれもペンキぬりたてか

※ 「おのれ」とはこの場合「お前」の意味